

はじめに

本書は、日本で初めて大学の環境対策を取りまとめた報告書になります。現在、各大学が自大学の環境報告書を作成していますが、全国の環境対策に取り組む大学を取り上げたものは今までありませんでした。また、各大学が環境報告書を発行し始めたのも2006年前後とまだその歴史も浅く、一部の大学でしか発行されていません。その事実が、日本の大学キャンパスにおける環境対策の遅れを反映したものとイえるでしょう。

日本は高度経済成長期の公害問題から環境意識が目覚め始め、1992年のリオ地球サミットから、90年代に気候変動、地球温暖化への関心が高まり、公害問題から地球環境問題へと意識が変わっていきました。そして、21世紀に入って「持続可能な社会」を実現させることが国際的にも重要な事項となっています。

こうした近年の流れのなか多くの企業は更なる省エネや技術開発を進め、社会に貢献しようとしています。大学もまた研究・技術開発の側面からそういった企業や社会を支援してきました。

今年度から東京都で施行された東京都環境確保条例では大学も対象事業者に含まれ、今後、これまで以上に実効的な対策に早急に取り組む必要が出てきました。しかし、実際には多くの企業が省エネに取り組み、成果を上げる中で、大学における地球温暖化対策は十分に進んでいないのが現状です。

米国オバマ大統領は2025年に自然エネルギー電力を25%まで引き上げる目標を掲げています。しかし、オバマ大統領の発言を待たずに米国の一部の大学では自然エネルギーで大学の電力を100%賄う大学が登場しています。

一方で、鳩山元総理が25%の二酸化炭素削減という目標を掲げました。日本では大学の電力の1%を自然エネルギーで賄う大学がようやく登場

したところですが。残念ながら、日本の大学では持続可能な社会を実現させる点で海外の大学に大きく遅れを取ってしまっています。

しかし、日本の大学、そこで働く教職員の方が省エネや環境対策にまったく取り組んでいないというわけではありません。多くの大学で省エネが取り組まれています。しかし、それが数字として表れてこない現実があります。

いくつかの大学では省エネに熱心に取り組み、成果をあげています。しかし、そのノウハウはあまり全国の大学には広がっていません。大学の職員は自分の大学内での業務に追われ、なかなか情報を発信している余裕がなく、情報を集める時間ありません。

そこで、大学のエコ化を支援する目的の下、この白書は企画されました。各大学が蓄積している知見と積み重ねてきた実績があります。その情報を集め、集積し、全国へと発信する。そして、各大学が情報を共有し自大学の取り組みへと活かす。それが本書の目的であります。

この全国エコ大学白書第一号を契機として、これからの新たな大学像としてのエコ大学を、そして、エコ大学としての地域・社会への貢献を、この白書を通して描き出してゆくことを期待しています。

Campus Climate Challenge 実行委員会
リサーチ・チーム リーダー 永井 健太郎

目次

はじめに	1
------	---

第1部 エコ大学ランキング

1. 調査の概要	4
2. エコ大学ランキング入賞大学	8
3. 調査結果	10
4. 参加大学一覧	18

第2部 環境対策事例紹介

1. 先進事例：三重大学	24
2. 先進事例：日本工業大学	28
3. 環境マネジメントシステム	30
- コラム - 「全ては学生から始まった」	35
4. ISO 学生委員会	36
5. ESCO 事業	38
6. 太陽光発電	42
7. 風力発電	44
8. バイオマス	50
9. 小水力発電	52
- コラム - スマートグリッドから見る大学の未来像	53
10. グリーン電力証書	54
- コラム - 生グリーン	58
12. カーボンオフセット	60
13. エコキャンパスツアー	66
14. 海外の事例	68
- コラム - 世界初！大学による CDM	72

第3部 大学と行政

1. 環境省・文科省	74
2. 東京都環境確保条例	78
- コラム - 私立環境保全協議会	84

資料編